

香川県金融経済概況

1. 概況

- 香川県内の景気は、基調としては持ち直しつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大によって、足もと弱含んでいる。

すなわち、設備投資は下げ止まっている。個人消費は、基調としては持ち直しているものの、感染症再拡大の影響等からサービス消費を中心に、足もと弱含んでいる。住宅投資は持ち直しの動きが一服している。公共投資は減少している。こうした中、企業の生産は持ち直しのペースが鈍化している。雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに改善に向かいつつある。

2. 実体経済

- 最終需要の動向をみると、以下のとおり。

設備投資は、下げ止まっている。

12月短観における設備投資（全産業）をみると、2021年度は、前年を上回る計画となっている。

個人消費は、基調としては持ち直しているものの、感染症再拡大の影響等からサービス消費を中心に、足もと弱含んでいる。

大型小売店の売上は、持ち直しの動きが一服している。

乗用車販売は、持ち直しの動きが一服している。

家電販売は、底堅く推移している。

主要観光地の入込客数（21/11～22/1月）は、持ち直しの動きが続いたあと、減少に転じた。

住宅投資は、持ち直しの動きが一服している。

公共投資は、減少している。

- 企業の生産は、持ち直しのペースが鈍化している。

化学は、振れを伴いつつも、高めの水準で推移している。金属製品、窯業・土石は、持ち直している。輸送機械は、持ち直しの動きがみられる。電気機械、汎用・生産用機械、非鉄金属は、横ばい圏内の動きとなっている。食料品は、弱めの動きとなっている。

- 雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに改善に向かいつつある。
- 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、小幅のマイナスとなっている。

3. 金融

- 民間金融機関の貸出（1月）は、前月に比べ前年比プラス幅が縮小した。
貸出約定平均金利（1月）は、前月比低下した。
- 預金（1月）は、前月に比べ前年比プラス幅が幾分縮小した。
- 倒産および信用保証協会の代位弁済は、低水準となっている。

以 上